

審査意見への対応を記載した書類 別添資料目次

- 別添資料 1-1 生産科学科 カリキュラム・マップ（新旧）
- 別添資料 1-2 農林大学校（養成部・研究部） カリキュラム・マップ
- 別添資料 1-3 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ
- 別添資料 3-1 食料・農業・農村基本法の骨子
- 別添資料 3-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021
- 別添資料 3-3 農山村地域の環境について学ぶ科目の概要
- 別添資料 4 履修モデル
- 別添資料 6 各コースにおける履修方法
- 別添資料 7 科目の見直し状況
- 別添資料 10 先端技術について学ぶ科目の概要
- 別添資料 12 臨地実務実習要綱
- 別添資料 13-1 「企業実習」巡回計画表
- 別添資料 13-2 「企業実習」担当教員の時間割
- 別添資料 15 C棟レイアウト図
- 別添資料 16 専門図書リスト
- 別添資料 17 附属施設・県有施設の概要
- 別添資料 19-1~4 シラバスの修正（新旧）
- 別添資料 19-5 学則別表（新旧）
- 別添資料 19-6 校舎の利用計画表（新旧）
- 別添資料 19-7 時間割表（新旧）

生産科学科 カリキュラム・マップ

卒業単位:68単位

【養成する人材像】
 ○農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修
- 選択必修
- ◎ コース必修
- 実験・実習

科目	カリキュラム・ポリシー	教育課程											
		1年				2年							
		春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	冬期		
基礎 (10単位)	(1) 社会人に求められる実用的な知識やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。	●静岡学 2		●情報処理演習 2		○英語基礎 1		○英語応用 1					
		●分子生物学 2		●コミュニケーション論 1		●保健体育 2		(自由)簿記基礎 1		(自由)簿記応用 1			
		●農学概論 2		●農林業のための科学 1		●農林業史 2		●農林業政策 2		●県内農林業事情 2		●県外農林業事情 1	
		●農業基礎 (7単位)		●農業史 2		●農林業政策 2		●県内農林業事情 2		●県外農林業事情 1		●富農と農業関連法 2	
職業専門 (46単位)	(2) 農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する専門的な理論や技術を学ぶとともに、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。	●生産理論 (14単位)		●栽培コース		●林業コース		●畜産コース		●海外農林業事情 1			
		●植物生理生化学 2		●肥料・植物栄養学 2		●森林計画学 2		●飼料総論 2		◎環境保全型農業論 2			
		●樹木・組織学 2		●植物保護 2		◎造林学 2		◎家畜飼養 2		◎木材生産システム 2			
		●畜産概論 2		◎先端栽培技術 2		◎森林生態学 2		◎家畜衛生学 2		◎森林マネジメント 2			
展開 (10単位)	(4) 農山村の伝統・文化の継承や地域社会及び生産物の加工・流通・販売などについて学ぶとともに、それらの知識を活用して生産物の付加価値向上を図るための手法を学ぶ教育課程を編成する。	●生産技術 (25単位)		●栽培コース		●林業コース		●畜産コース		◎人工授精論 2			
		●総合実習 2		◎圃場実習 I (野菜) 4		◎演習林実習 I 4		◎圃場実習 I (畜産) 4		◎畜産環境・堆肥利用論 2			
		◎植物生理生化学 2		◎圃場実習 II (野菜) 6		◎演習林実習 II 6		◎圃場実習 II (茶) 6		◎畜産環境・堆肥利用論 2			
		◎樹木・組織学 2		◎圃場実習 II (野菜) ※再掲 6		◎演習林実習 II 6		◎圃場実習 II (茶) ※再掲 6		◎畜産環境・堆肥利用論 2			
総合 (2単位)	(5) 農林業生産現場における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。	●農山村の伝統・文化及び地域社会 (2単位)		●加工・流通・販売等 (8単位)		●林業コース		●畜産コース		◎プロジェクト研究 2			
		●農山村田園地域公共学 2		●食品科学 2		◎木材加工演習 2		●食品科学 ※再掲 2		◎プロジェクト研究 2			
		●農山村田園地域公共学 2		●食品加工演習 2		◎林業経営 2		●食品加工演習 ※再掲 2		◎プロジェクト研究 2			
		●農山村田園地域公共学 2		●アグリフードシステム論 2		◎畜産経営 2		●食品加工演習 ※再掲 2		◎プロジェクト研究 2			

ディプロマ・ポリシー

(1) 社会人に求められる知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。
 (2) 農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。
 (3) 農山村の地域社会を支える農林業者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。
 (4) 農山村の地域資本

農林環境専門職大学短期大学部 生産科学科 カリキュラム・マップ

育成する人材像	確かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となる人材
	生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識や技術と、その応用力を持った人材

ディプロマ・ポリシー	区分	1年				2年				科目
		春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	
1 ・専門分野のみにとらわれない幅広い知識・価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養		静岡学(通年)								基礎
		情報処理演習								
		保健体育								基礎
		英語基礎		英語応用						
			コミュニケーション論							基礎
			分子生物学							
		簿記基礎	簿記応用							基礎
2 農林業生産を行うための知識・技術と、それを活用するための能力	農林業基礎	農学概論	農山村田園地域公共学						野生鳥獣管理・利用論	職業専門
		農林業史	県内農林業事情				海外農林業事情			
		農林業政策	県外農林業事情							
		農林業のための科学			農業経営				営農と農業関連法	
		農と食の健康論			畜産経営					
				林業経営						
	栽培	植物生理生態学	肥料・植物栄養学	植物保護	野菜栽培		施設園芸 I		施設園芸 II	
				作物栽培	花き栽培		精密農業論		環境保全型農業論	
					茶栽培					
				果樹栽培						
	生産理論	土壌学	植物遺伝育種学概論							
		森林計画学	造林学	森林生態学	樹木・組織学	木材生産システム論			森林マネジメント論	
					森林土木論(治山・林道)					
家畜	畜産概論	飼料総論	家畜飼養	畜産環境・堆肥利用論	畜産経営演習 I (大家畜)			畜産経営演習 II (大家畜)		
		家畜生理解剖	家畜育種繁殖		畜産経営演習 I (中小家畜)			畜産経営演習 II (中小家畜)		
			家畜衛生		人工授精					
			畜産法規							
3 農林業生産の実験・実習・演習を通じて身に付く、自主的・継続的に学習を進める能力、他者と協調し事業を推進できる能力	実習・演習	総合実習		(コース別)生産基礎 I	(コース別)生産基礎 II					
				(コース別)圃場・演習林実習 I	(コース別)圃場・演習林実習 II					
						大型機械実習				
						GAP演習				
						企業実習				
					森林認証演習	森林施業プラン演習				
4 加工・流通・販売に関する知識の修得による、生産物の付加価値を向上させる手法の理解	加工・流通・販売			食品化学	アグリフードシステム論			流通加工論		
				食品衛生学	木材加工演習					
				木材利用論				木材流通論		
				食品加工演習		マーケティング演習				
						販売演習				
4 ・修得した専門知識と技術を駆使して、課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理する能力・分析・整理した結果を表現する論理的な記述力、口頭発表力、コミュニケーション能力						プロジェクト研究			総合	

カリキュラム・ポリシー	基礎科目	社会人として必要な知識などを身につけるため、情報処理やコミュニケーションスキル等を学ぶ科目を配当
	職業専門科目	農林業生産理論に必要な知識・技術を身につけるため、農林業基礎、生産理論、生産技術を学ぶ科目を配当するとともに、実習・演習科目を重点的に配当
	展開科目	生産物の付加価値を向上させる手法を理解するため、加工、流通、販売について学ぶ科目を配当
	総合科目	農林業生産における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、その成果をとりまとめる科目を配当

アドミッション・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> (1) 農林業生産技術を学ぶ上で必要な基礎学力と知識を身に付けている人 (2) 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、従来の常識にとらわれない柔軟な思考力を備えている人 (3) 農林業に高い関心を持ち、生産現場の技術者や指導者になろうとする意欲がある人 (4) 身に付けた技術や知識で農林業の発展に貢献する意欲がある人
---------------------	---

農林大学校(養成部・研究部) カリキュラム・マップ

		養成部1年	養成部2年	研究部1年	研究部2年	
区分				区分		
教養科目		教養基礎、体育 基礎英語、英会話 経済学、心理学 社会学、生物学				
全学科共通科目		農林業経営、農林業政策 ○作物、○農林業汎論 マーケティング論、特別講義 情報処理Ⅰ・Ⅱ、 情報処理演習 簿記Ⅰ・Ⅱ 農業気象、環境科学 国際関係論、経営分析・設計 農畜産物加工、国際政治論 フラワーデザイン、造園		農業経営学 マネージメント演習 企業法人研修 マーケティング論 開発商品事例研究 農畜産物加工論 商品化実践実習Ⅰ 流通研究 農業機械実習 ◎インターシッパⅠ		
専門科目	園芸学科	野菜コース	○野菜概論Ⅰ・Ⅱ	○園芸施設と経営 園芸病害虫と土壌飼料	野菜栽培と育種 ○各種特論	
		花きコース	植物生理 農薬概論 農業機械基礎	○花き概論Ⅰ・Ⅱ	農業経営研究講座 園芸流通	花き栽培と育種 ○各種特論
	茶業学科	茶業学科	○生物工学Ⅰ・Ⅱ ○植物防疫Ⅰ・Ⅱ ○土壌肥料Ⅰ・Ⅱ ○営農ゼミ	○茶栽培Ⅰ・Ⅱ ○茶加工Ⅰ・Ⅱ ○手もみ技術Ⅰ	○茶樹育種、○茶樹栽培Ⅰ・Ⅱ ○茶製造、○茶業土壌肥料 ○茶樹病害虫、手もみ技術Ⅱ ○各種茶、茶業経営、 茶業流通、各種特論	
			果樹学科	果樹栽培基礎Ⅰ・Ⅱ 果樹栽培実習Ⅰ・Ⅱ	○果樹育種、○果樹栽培 ○果樹土壌肥料、○果樹病害虫 ○果樹施設環境生理、 果樹経営、果樹経営分析、 果樹流通加工、各種特論	◎先進経営研修 ○大型機械実習
	畜産学科	大家畜コース	畜産概論 畜産法規 ○家畜生理解剖 畜産加工論 飼料総論	畜産経営 ○乳牛飼養管理、○肉牛飼養管理 家畜管理実習、○繁殖 ○環境保全、○飼料生産調整 流通加工、○各種特論		
		中小家畜コース	畜産環境論 ○家畜育種繁殖Ⅰ・Ⅱ ○家畜衛生 ○畜産堆肥利用論 ○家畜飼養Ⅰ・Ⅱ	中小家畜経営、中小家畜施設 飼養管理、○繁殖育種 ○衛生疾病、栄養生理 ○環境保全、○流通加工 中小家畜飼養、○各種特論		
林業学科	林業学科	○森林・林業基礎 ○木材利用Ⅰ・Ⅱ ○測樹 林業経営Ⅰ ○育林Ⅰ・Ⅱ ○特用林産Ⅰ・Ⅱ ○林業機械 ○伐木集運材Ⅰ ○森林測量、○森林情報	○森林保護、○環境保全 ○木材利用Ⅲ・Ⅳ 林業経営Ⅱ ○育林Ⅲ・Ⅳ ○特用林産Ⅲ ○伐木集運材Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ○林業特論Ⅰ・Ⅱ			
アグリビジネス学科				農学研究 植物生理学 土壌肥料学 植物病理学 応用昆虫学	海外派遣研修	
				地域活性化論、 地域活性化プロジェクト プロジェクトセミア プロジェクト実習Ⅰ プロジェクト演習Ⅰ	農林事務所学習 プロジェクトセミアⅡ プロジェクト実習Ⅱ プロジェクト演習Ⅱ	

凡例
 ○…「生産理論を学ぶ講義」と「生産技術を身につける実習」が一体となった科目
 ◎…臨地実務実習

生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ

卒業単位:129単位

【養成する人材像】

○農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修
- ◎ コース必修
- 選択必修
- 実験・実習

科目	カリキュラム・ポリシー	教育課程									
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎 (20単位)	(1)一般教養やコミュニケーションスキルなどを学ぶ教育課程を編成する。	■一般教養(10~12単位)		●情報処理応用 1		茶道 1 華道 1					
		●経済学概論 2 ●情報処理基礎 1		●社会学概論 2 ●政治学概論 2 ●統計学 2		●歴史学概論 2 ●文学概論 2 ●文明論 2					
		法学概論 2		●農林業経営学(自由)簿記応用 2 ●フードシステム論 2		●経営戦略 2 ●財務会計 2 ●マーケティング論 2 ●労務管理 2		●管理会計 1			
		※ここから4単位以上		●保健体育Ⅰ 2		●保健体育Ⅱ 2					
		●コミュニケーション論 2		英語Ⅰ 2 英語Ⅱ 2		英語Ⅲ 2 英語Ⅳ 2					
職業専門 (85単位)	(2)企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。 (3)農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。 (4)農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。 (5)農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。	■経営管理(25単位)		●農林業経営学(自由)簿記応用 2		●農林業経営学(自由)簿記応用 2		●経営実習Ⅰ 5 ●経営実習Ⅱ 5			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
		●農学概論 2 ●環境と農林業 2		●経営戦略 2 ●マーケティング論 2 ●財務会計 2 ●労務管理 2		●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2		●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2			
展開 (20単位)	(6)農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。	■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2			
		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2			
		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2			
		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2			
		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2			
総合 (4単位)	(7)農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。	●農山村地域公共学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2		●農村社会学 2			
		●農と食の哲学 2		●食文化論 2 ●医食農連携論 2		●食文化論 2 ●医食農連携論 2		●食文化論 2 ●医食農連携論 2			
ディプロマ ・ポリシー	(1)専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。 (2)農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。 (3)農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。 (4)農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。 (5)農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。 (6)修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。	●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2			
		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2			
		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2			
		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2			
		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2		●総合実習 2			

食料・農業・農村基本法の骨子

第1 基本理念

1. 食料の安定供給の確保

- 1 食料は、人間の生命の維持に欠くことができないものであり、かつ、健康で充実した生活の基礎として重要なものであることにかんがみ、将来にわたって、良質な食料が合理的な価格で安定的に供給されなければならない。#
- 2 国民に対する食料の安定的な供給については、世界の食料の需給及び貿易が不安定な要素を有していることにかんがみ、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと輸入及び備蓄とを適切に組み合わせる行われなければならない。#
- 3 食料の供給は、農業の生産性の向上を促進しつつ、農業と食品産業の健全な発展を総合的に図ることを通じ、高度化し、かつ、多様化する国民の需要に即して行われなければならない。#
- 4 国民が最低限度必要とする食料は、凶作、輸入の途絶等の不測の要因により国内における需給が相当の期間著しくひっ迫し、又はひっ迫するおそれがある場合においても、国民生活の安定及び国民経済の円滑な運営に著しい支障を生じないよう、供給の確保が図られなければならない。#

#

2. 多面的機能の発揮

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能(以下「多面的機能」という。)については、国民生活及び国民経済の安定に果たす役割にかんがみ、将来にわたって、適切かつ十分に発揮されなければならない。#

#

3. 農業の持続的な発展

農業については、その有する食料その他の農産物の供給の機能及び多面的機能の重要性にかんがみ、必要な農地、農業用水その他の農業資源及び農業の担い手が確保され、地域の特性に応じてこれらが効率的に組み合わせられた望ましい農業構造が確立されるとともに、農業の自然循環機能(農業生産活動が自然界における生物を介在する物質の循環に依存し、かつ、これを促進する機能をいう。以下同じ。)が維持増進されることにより、その持続的な発展が図られなければならない。

#

4. 農村の振興

農村については、農業者を含めた地域住民の生活の場で農業が営まれていることにより、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしていることにかんがみ、農業の有する食料その他の農産物の供給の機能及び多面的機能が適切かつ十分に発揮されるよう、農業の生産条件の整備及び生活環境の整備その他の福祉の向上により、その振興が図られなければならない。

“ふじのくに”の農山村づくり
(静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021)

静岡県経済産業部

<目 次>

はじめに

1 策定の趣旨	1
2 役割	2
3 構成と計画期間	2

I 基本方針

1 理念	3
2 取組の視点	4

II 基本計画

1 現状と課題	7
2 政策方針	11
3 施策方針	21
4 計画推進にあたっての留意事項	25

III プラン実現に向けた連携

1 農村振興技術者の役割	27
2 関係者への期待	29

IV 指標	31
-------	----

(参考資料)	36
--------	----

はじめに

1 策定の趣旨

静岡県では、平成 25 年度に策定した「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農山村整備みらいプラン 2014-2017）」に基づき、農業用水の安定供給や生産性向上による産地競争力の強化、地域資源の保全継承を担うコミュニティの形成と活性化を重点取組に掲げ、地域の様々な活動と連携し、農山村づくりに取り組んできた。

このプランでは、農業農村整備事業の長期的な理念を「美しく品格のある農山村の創造」と定め、平成 25 年度までの最初の 4 年間は「基礎づくり」、平成 29 年度までの 4 年間は「実践的モデルづくり」の視点のもと取組を展開してきた。

これまで、産地戦略の実践として基盤整備を実施してきた地区では、生産性が飛躍的に向上し、意欲的な後継者が育成されるとともに、レタスなどの高収益作物の導入が徐々に拡大してきている。

また、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」では、県下で 122 の地域が「美しく品格のある邑」に登録されるとともに、農山村の景観や地域の歴史・文化等の地域資源を活用した活動を行う NPO 等の主体が設立されるなど、農山村に新たな活力が生まれており、この 8 年間の取組は着実に成果をあげている。

しかしながら、本格的な人口減少社会を迎える中、農業者の高齢化や担い手の不足、TPP や EPA 等のグローバル化の進展や国内産地間競争の激化等により、本県の農山村は総体として弱体化傾向にある。

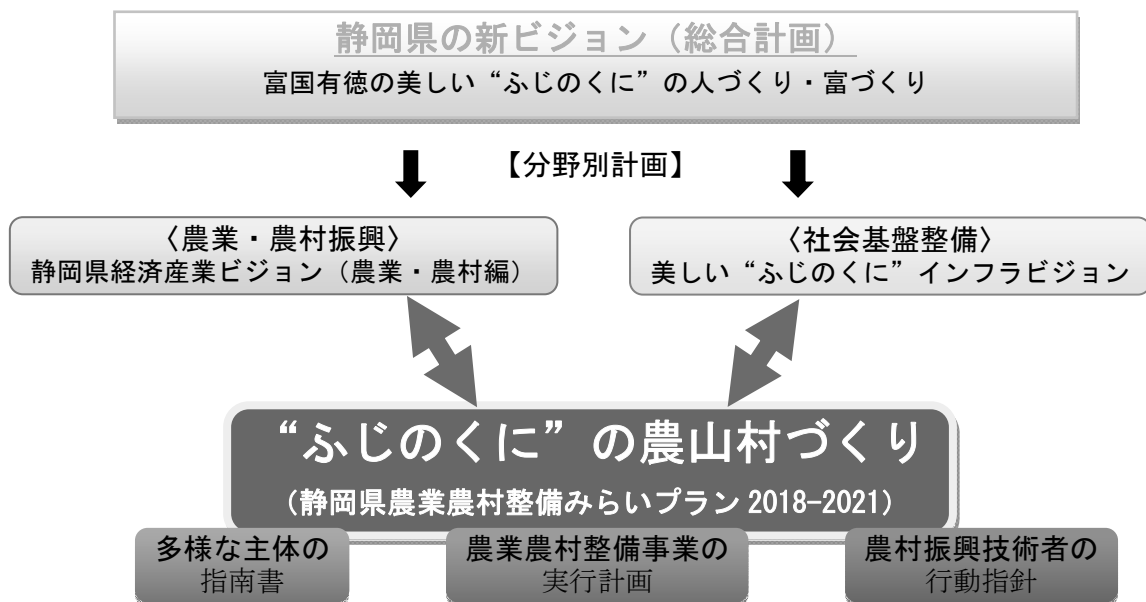
このような状況において、本県の農山村が有する「多彩で高品質な農産物の安定供給」と「多面的機能の発揮」という重要な役割を将来に渡って持続的に維持・発展させていくために、農業の競争力強化と農山村社会の再生・活性化に向けた取組を、地域特性に応じて、一体的に進めていかなければならない。

このため、美しく品格のある農山村の創造の実現に向けた「発展的取組の拡大」を行うプランとして、この「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021）」を策定する。

2 役割

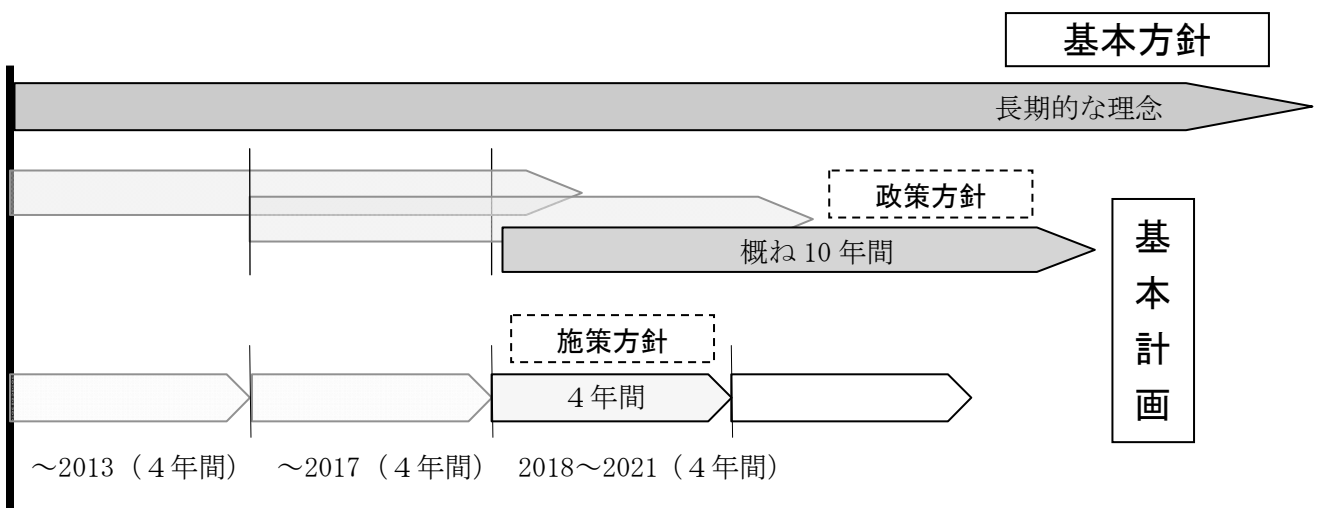
このプランは、上位計画の「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」、その分野別計画である「静岡県経済産業ビジョン（農業・農村編）」並びに「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」の実行計画として、本県の農業農村整備事業の長期的な理念と取組の視点、政策の方向性と主な取組を明らかにするものである。

また、農業農村整備事業に関わるあらゆる立場の人々、団体、機関等が、共通認識のもとで本県の農山村のあるべき姿を描き、その具現化に向けて、協働して取り組むための指南書であるとともに、農業土木技術者が農村振興技術者へと発展し実践すべき行動指針としての役割を担うものである。



3 構成と計画期間

本プランは、本県の農業農村整備事業の「基本方針」を示すとともに、概ね10年間の政策方針と、その達成に向けた平成30年度（2018年度）から4年間の具体的な施策方針を示した「基本計画」により構成している。



I 基本方針

1 理念

『美しく品格のある農山村の創造』

かつて、幕末から明治に日本を訪れた多くの外国人は、まるで庭園のように手入れされた農山村の美に深く感嘆し、「絵のように美しい」と形容した。その美しさは、自然と人間の営みが長い年月をかけて造り上げた農山村の姿だけではなく、当時の人々の考え方、暮らしぶりといった日本社会そのものに対する感動からおこったものであった。

「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり（静岡県総合計画）」を目指す本県の農山村は、当時の農山村を理想像として、景観の美しさにとどまらず、その源となる農業に勤しむ生産者と、地域の資源を保全し次世代へ継承しようとする様々な人々の共同体意識に至る外形と内面の「農山村の美」を実現していくことが重要である。

人に人格があるように村にも村格があり、それは、鎮守の森や菩提寺、旧家の名主・豪農、土地改良の水利権といわれた。村格の基準は、当時と大きく変化していると思われるが、人格が、「独立した個人としての、その人の人間性」であれば、村格は、「独立したひとつの共同体としての地域性」、「その地域固有の、共同体としてのあり方」であるともいえる。従って、「人格者」と言われる人がいるように、「村格者」と言われるような農山村もあるべきである。

本県の農山村がその姿を富士山のように美しく高め、世界中から憧れられ、そこを訪れてみたい、そこの産物を手にしたい、そこで暮らしてみたいと思われるような存在となるためには、共同体としての農山村の社会（コミュニティ）が、地域のあり方を自ら考え、主体的・意欲的に地域の「場の力」を最大限に活用し、その実現に取り組むといった力強い自律性に裏付けられた品格が必要である。

こうした考えに基づき、農業農村整備事業に関わるあらゆる人々が、農山村のあるべき姿を見定め、的確に対応していくための道標となる理念を「美しく品格のある農山村の創造」とする。

2 取組の視点

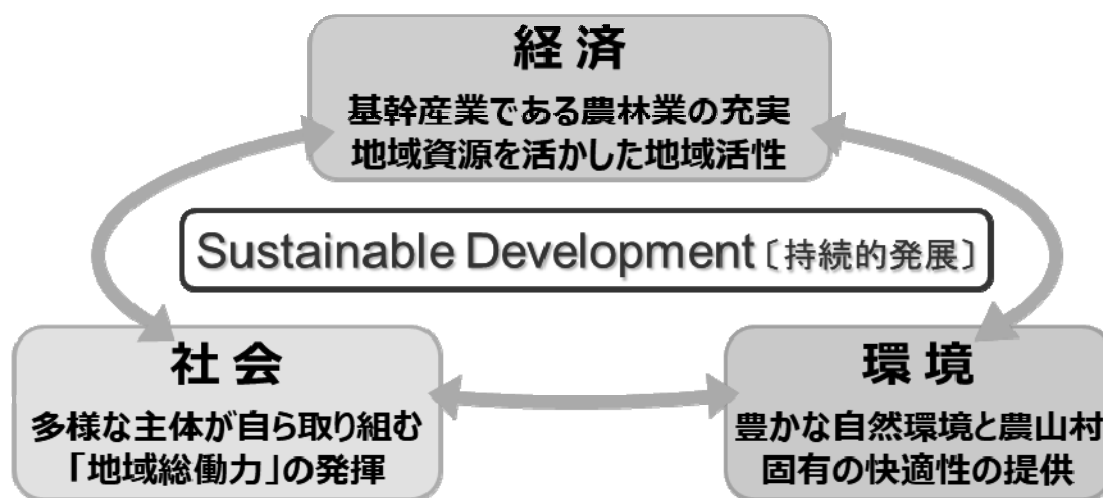
～ 環境・経済・社会の調和による持続可能な農山村づくり ～

農山村では、人と自然の共生が生み出す二次的な環境を基礎として、農業生産活動、人々の生活、地域の歴史、文化が調和した独自の景観が形成されており、こうした農山村の佇まいは、農業が持続的に行われるとともに、農山村の活力が維持、向上されることによって保全されている。

この「農山村らしさ」は、単に視覚的な自然の姿や農業生産の場としての景観だけではなく、長い歴史の中で、それらを保全し継承してきた農山村の社会（コミュニティ）が根幹となっている。

コミュニティなくして、水田や水路、里山などの二次的な環境を継承していくことは難しく、また、担い手への農地集積や基盤整備など、個の生産活動を発展させることも難しい。同時に、農泊やGI（地理的表示）、産地での直売など、農産物や地域資源を活用した経済活動を行う上でも、地域の環境や景観が重要な要素になる。

このことから、美しく品格のある農山村の創造に向け、農山村の根幹であり、多様な主体の協働力により構築された「社会（コミュニティ）」、人と自然との共生関係によって創造・継承されてきた特色のある農山村の「環境」、地域の基幹産業として成長を続ける農山村の「経済」が、地域特性に応じてバランスよく調和することで持続性が確保¹されるよう、農業・農村施策を総合的に展開していく。



¹ 「美しく品格のある農山村」について、前プランでは「3つの要素それぞれの持続性が確保された姿」としていたが、本プランでは、地域特性に応じて、「3つの要素がバランスよく調和することにより持続性が確保された姿」としている。

社 会

農山村の社会（コミュニティ）は、農業の歴史と深く関わり、営農や水管理等の共同作業を通じて形成され、非農家も含めた冠婚葬祭等の様々な集落活動を通じて、その結びつきを強め、安定的なものとしてきた。

しかし、農業従事者の減少や高齢化に加え、都市化・混住化の進行、就業形態の変化、生活様式や価値観が多様化する中、地域内の地縁的な結びつきが希薄化し、農業活動はもとより、中山間地域等においては集落活動を維持していくことも困難になりつつある。

その一方で、都市住民等を含む様々な人々の「田園回帰」志向の高まりにより、農山村への移住や援農ボランティア等の動きが広がってきており、こうした人々が、恵まれた交通インフラを有する本県の優位性を活かし、農山村との多様な関わりを深め、持続可能な農山村づくりに積極的に参画することが求められる。

このため、農山村での集落活動により備わった合意形成力を基本としつつ、地域住民、行政や都市住民、外部人材や企業が主体となって、長期的な視点のもと、持続性に富んだ豊かな暮らしを享受できる地域のあり方を自ら考え、地域の将来構想の実現に取り組む「地域総働力」²を備えたコミュニティを形成していくことが重要である。

また、コミュニティ強化に向けては、これまでの農村資源の保全管理を重視した側面から、伝統文化の継承や教育、福祉の活動など、地縁組織として住民の暮らしに必要な様々な活動を担う農山村の機能複合性の重視へと視野を広げ、豊かな暮らしやライフスタイルを意識した取組を展開することも重要な視点である。



² 農業者や地域住民による「農村協働力」に、都市住民や企業等の地域外の協力を加えた「新たな力」行政と市民のように1対1に表現される協働より先に進んだ形態。組織や立場を問わず、地域に関係する全員が参画し、総力を挙げて地域づくりに取り組むこと。

環境

農山村の環境は、生物の多様性や眺望の良さ等によって、ゆとりと潤い、やすらぎに満ちた農山村固有のアメニティ（快適性）を私たちに提供している。

アメニティの源泉となっている農山村の多様な地域資源は、そこに住む人や訪れる人が、幸せや安らぎを感じる優れた環境を保持している。

農山村が持つアメニティは、郷愁をさそう原風景といえる環境を保全あるいは復元することのみによって実現されるものではない。恵まれた交通インフラがもたらす新たな価値を活用し、本県らしい「豊かな自然と都市的な利便性を併せて享受できる現代的な意義を持った農山村のアメニティ」を創出することが重要である

加えて、長い歴史の中で先人たちから、自然に対する畏敬の念や災害への脅威とともに受け継がれてきた、大地震や豪雨に対する防災意識のもと、災害への対策が適切に実施されていることも重要な視点である。



経済

農山村の基幹産業は、生産者の占める割合が小さくとも、その役割、土地利用の規模等からみても農林業である。また、その生産活動により、特徴的で季節を感じさせる景観等を生み出している。

本県の農業は、低コスト化や高付加価値化によって安定的かつ持続的に展開されるとともに、「食材の王国」である本県の多彩で高品質な農産物を生み出している。併せて、恵まれた交通インフラ、富士山に代表される景観等の地域資源を活かした農商工連携等によって地域経済をもけん引していくことが重要である。

また、中山間地域等において、農業や農地・農業用施設の有する多面的機能を活用し、時代の流れをつかんだ、農泊やジビエ、農福連携等、新たな視点を加えたビジネスを誘発することも重要な視点である。



「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境」について学ぶ科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
農林業基礎	農学概論	<p>(概要) 持続的な社会の構築に向けて、農学には新たな展開が必要となっている。本科目では、日本の農林業の現状を把握し、<u>環境問題、エネルギー問題、担い手問題、食生活の多様化に対応した作物供給、農産物輸出、経営の大規模化、農地集積、遺伝子組換え技術など複雑にからみあう現実の課題を解決し、また、農林業が持つ環境保全や景観形成など生産以外の機能をどのように発揮させ、持続的な社会を構築するのかを考察する。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 吉村親/1回) 農業の担い手の現状と課題 (7 中野敬之/1回) 工芸作物栽培の現状と課題 (16 稲葉善太郎/1回) <u>花と緑を活用した緑化と景観形成</u> (17 杉山泰之/1回) 果樹園芸の現状と課題 (23 松尾和之/1回) <u>持続可能な社会と農学、人口推計と食料需給</u> (24 佐藤展之/1回) <u>肥料と環境問題</u> (24 外側正之/2回) <u>有害生物の防除と管理</u> (28 杉山恵太郎/1回) 野菜園芸の現状と課題 (25 祐森誠司/1回) 畜産の現状と課題 (27 逢坂興宏/1回) <u>森林・林業の環境保全機能と景観形成機能</u> (31 平岡裕一郎/2回) 日本林業の現状と課題 (40 丹羽康夫/2回) 遺伝子組換え技術の現状と課題</p>
	肥料・植物栄養学	<p>植物の生産現場では、常に植物が安定して成長することが望まれる。このためには肥料の種類、効果の知識だけでなく、<u>栄養状態が不良となっている植物の栄養状態を改善し、生産を向上させるための知識が必要となる。</u>本科目では、高等植物を対象とし、<u>高等植物の特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。</u>また、<u>近年、肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法について考える。</u></p>
	植物保護	<p>植物の生産現場では、その生産に悪影響を与える様々な生物的・無生物的環境要因があるが、<u>自然保護、自然復元などの環境科学的視点に立った植物の栽培管理や栽培環境の保健衛生の改善から、単純な薬剤防除とは異なる新しい植物保護のあり方を考える必要がある。</u>本科目では、<u>農作物の生産に悪影響を与える病原体、昆虫、ダニ類、センチュウ類、雑草などの種類と分類・診断の知識、生活史などの生態、それらの防除技術、農薬の種類・特性および農薬残留と登録の仕組み、植物検疫、発生予察、さらには有機栽培、IPMなど環境に配慮した植物保護技術について総合的かつ体系的に学ぶ。</u></p>
	土壌学	<p>土壌は農林業に利用されるだけでなく、<u>地球環境保全にも欠かせないものである。</u>本科目では、<u>土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などの土壌の構成、土壌鉱物、陽イオンと陰イオンの交換と固定、土壌生物、土壌有機物、土壌の酸化・還元に加え、水田や畑、施設、草地、樹園地などの土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。</u>また、<u>土壌診断に基づいた土壌改良対策・適切な施肥設計の方法を理解し、環境に配慮した土づくりについて考える。</u></p>
	施設園芸	<p>施設園芸は、<u>園芸作物の周年安定生産・供給を可能とする集約的な栽培をする農業形態であり、日射量に恵まれている温暖な静岡県では、豊富な日射量を利用した野菜や花きを中心とした施設園芸が盛んである。</u>本科目では、<u>施設栽培を行う上で必要な知識として、施設の構造、施設内における光・温湿度・ガス・水分環境の特徴や、基礎的な環境調節技術、栽培管理技術について学ぶとともに、環境負荷の少ない施設園芸のあり方についても考える。</u></p>
職業専門科目	生産理論(栽培)	<p>(概要) 農業生産力は、<u>品種改良・化学肥料・農薬の三大技術革新で、急激に増大する地球人口を支えてきた。</u>しかし、<u>利益追求や不適切な資材適用による農業生産活動が、環境汚染負荷となって生活環境の破壊ばかりか、農業の再生産にも悪影響を及ぼす事態に及びつつある。</u>さらに<u>グローバル化に伴う食品安全性の担保は、その生産過程にも求められる時代にもなっている。</u>そこで、<u>本科目では、農業のもつ多面的機能を学び、海外の環境保全産業としての農業等を範とする環境保全型農業の様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。</u></p> <p>(オムニバス方式/15回) (18 片山信也/5回) <u>畜産堆肥を使った土づくりと化学肥料低減技術</u> (27 小澤朗人/10回) <u>環境保全型農業とは、環境保全型農業の取り組み事例、化学農業低減技術</u></p>
	環境保全型農業論	<p>(概要) 農業生産力は、<u>品種改良・化学肥料・農薬の三大技術革新で、急激に増大する地球人口を支えてきた。</u>しかし、<u>利益追求や不適切な資材適用による農業生産活動が、環境汚染負荷となって生活環境の破壊ばかりか、農業の再生産にも悪影響を及ぼす事態に及びつつある。</u>さらに<u>グローバル化に伴う食品安全性の担保は、その生産過程にも求められる時代にもなっている。</u>そこで、<u>本科目では、農業のもつ多面的機能を学び、海外の環境保全産業としての農業等を範とする環境保全型農業の様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。</u></p> <p>(オムニバス方式/15回) (18 片山信也/5回) <u>畜産堆肥を使った土づくりと化学肥料低減技術</u> (27 小澤朗人/10回) <u>環境保全型農業とは、環境保全型農業の取り組み事例、化学農業低減技術</u></p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
職業専門科目	森林計画学	<p>(概要)</p> <p>森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法、リモートセンシング技術を用いた森林計測等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、森林情報等の基本事項を学ぶ。さらに、持続可能な森林管理に向けた森林認証制度等を学ぶとともに、今後の地球環境問題等の政策課題についても考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (19 近藤晃/5回) 森林政策の歴史と制度 (31 逢坂興宏/5回) 森林調査の方法論 (38 平岡裕一郎/5回) リモートセンシング技術をもちいた森林計測</p>
	造林学	<p>木材供給、水土保全、保健休養、CO2吸収等の森林が私たちにもたらす恩恵である多くの生態系サービスを将来にわたって享受するためには、森林を健全に保全すると共に、その持続的な循環利用(伐採、植栽、育成・保全)を図る必要がある。本科目では、造林学の基礎となる森林づくりの原理・原則、並びに森林づくりのために行われる各種作業(地拵、植栽、下刈、除伐、間伐等)の目的や方法を学ぶ。また、広葉樹林、針広混交林、複層林等、多様な森林づくりの目的とそれに対応した施業技術について学ぶ。さらに森林景観を科学する森林風致学を概説する。</p>
	森林生態学	<p>近年、森林生態系機能の持続性が求められるようになり、森林資源利用の生物多様性への影響等に対する配慮が求められている。このため、森林景観が環境とどのような関係をもって成立しているかを学ぶとともに、生態系を構成する要素、生命を支える一次生産の仕組、有機物の分解など森林の物質循環を維持する仕組を学ぶ。また、近年問題となっている鳥獣被害、松くい虫対被害について、現状と対策など森林保護に関する知識を学ぶ。</p>
	森林土木論(治山・林道)	<p>森林土木論は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象(表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等)の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表面崩壊防止の機能とその限界、荒廃地の復元技術および森林・植生がもつ環境保全機能と景観形成機能についての知識と最新の技術を学ぶ。林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。</p>
	森林マネジメント	<p>森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて生活を支えている。このため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。また、森林認証制度は、公共建築や商業施設での認証材の活用が推進されているため、森林認証の取得はビジネス・チャンスにつながる可能性がある。長期的な視点に立って作成される森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林業経営を考える。森林認証の制度や取得方法について学び、森林認証を使用したビジネス展開について考える。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
職業専門科目	畜産概論	畜産学とは、人がその生産物を利用するために繁殖させる動物である家畜を人間の経済活動に活用するための技術を学ぶ学問分野である。グローバル化が進む中、畜産業は、生産効率以外に環境・生命倫理等の重要課題との調和も強く求められている。本科目は、畜産学の導入科目であり、畜産と畜産学、家畜化と品種、畜産物の生産と利用、家畜の育種・繁殖、草地利用と保全、畜産物の機能と安全性、畜産環境と排泄物資源等の畜産技術の全般的な基礎的知識を学ぶ。
	畜産環境・堆肥利用論	本邦畜産業が、海外畜産業との競合に打ち勝つためには、生産物の品質向上と同時に生産効率向上につながる規模拡大が必須である。しかし、家畜排せつ物に起因する、悪臭、水質汚濁、衛生害虫等が、畜産業の規模拡大に対する大きな阻害要因となっている。さらに、昨今の環境保全意識の高まりから環境に配慮した家畜ふん尿処理技術も求められている。その一方で、安定的に産出される家畜ふん尿はバイオマス資源として注目され、バイオエネルギーの主原料として活用され始めている。そこで、家畜ふん尿のマイナス面を減らす技術、プラス面を活用する技術の基礎を学び、理解を深める。
展開科目	農山村田園地域公共学	農業は地域と密着した産業であり、持続可能な産業とするためには地域社会との共同活動が不可欠である。また、農業には、生産以外の様々な多面的な機能がある。本科目では、農山村の歴史や文化、農業・農村の多面的機能とその保全、地域資源の活用の取り組みについて学び、農山村や田園空間に存在する固有の歴史、伝統、文化等について理解を深め、これからの農業・農村のあり方に考える能力を育成することを目標とする。

生物生産科学科 履修モデル

別添資料4(新)

履修モデル：施設野菜現場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目区別単位数
基礎科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
		必修 保健体育	2	英語応用	1												
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2						海外農林業事情	1					7
		必修 農林業のための科学	1	県外農林業事情	1												
		生産理論		植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 先端栽培技術	2						選必 環境保全型農業論	2	
生産技術	必修 総合実習	2			選必 植物保護	2	施設園芸	2									14
					選必 園場実習Ⅰ(野菜)	4	野菜栽培	2									
展開科目	伝統・文化		必修 農山村園地地域公共学	2													10
	加工・流通・販売・経営				食品化学・衛生学	2	選必 農業経営	2			必修 マーケティング・販売演習	2					
総合科目					食品加工演習	2			必修 プロジェクト研究	2							2
クォーター別単位数		11		11		12		8		8		6		10		2	68

履修モデル：露地野菜現場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目区別単位数
基礎科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
		必修 保健体育	2	英語応用	1												
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2		野生鳥獣管理・利用論	2									7
		必修 農林業のための科学	1	県外農林業事情	1										選必 環境保全型農業論	2	
		生産理論		植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 先端栽培技術	2								
生産技術	必修 総合実習	2			選必 植物保護	2	野菜栽培	2									14
					選必 園場実習Ⅰ(野菜)	4											
展開科目	伝統・文化		必修 農山村園地地域公共学	2													10
	加工・流通・販売・経営						選必 農業経営	2			農と食の健康論	2					
総合科目							アグリフードシステム論	2			必修 プロジェクト研究	2					2
クォーター別単位数		11		10		10		10		10		5		10		2	68

履修モデル：花き現場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
		必修 保健体育	2	英語応用	1												
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2	営農と農業関連法	2										7
		必修 農林業のための科学	1														
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 先端栽培技術	2						環境保全型農業論	2	14
				選必 植物保護	2	選必 施設園芸	2	花き栽培	2								
	生産技術	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ（花き）	4			選必 圃場実習Ⅱ（花き）	6			必修 企業実習	10		25
										必修 大型機械実習	2						
										必修 G A P 演習	1						
展開 科目	伝統・文化		必修 農山村田園地域公共学	2						農と食の健康論	2						10
	加工・流通・販売・経営						選必 農業経営 流通加工論	2		必修 マーケティング・販売演習	2						
総合 科目									必修 プロジェクト研究	2							2
クォーター 別単位数		11		10		10		10		13		2		10		2	68

履修モデル：茶現場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
		必修 保健体育	2	英語応用	1												
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2								海外農林業事情	1			7
		必修 農林業のための科学	1	県外農林業事情	1												
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 先端栽培技術	2						選必 環境保全型農業論	2	14
				選必 植物保護	2	選必 施設園芸	2	茶栽培	2								
	生産技術	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ（野菜）	4			選必 圃場実習Ⅱ（茶）	6		必修 企業実習	10	G A P 演習	1	25
										必修 大型機械実習	2						
展開 科目	伝統・文化		必修 農山村田園地域公共学	2													10
	加工・流通・販売・経営				食品化学・衛生学	2	選必 農業経営 流通加工論	2		必修 プロジェクト研究	2		必修 マーケティング・販売演習	2			
総合 科目									必修 プロジェクト研究	2							2
クォーター 別単位数		11		11		12		8		10		11		3		2	68

履修モデル：果樹現場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
		必修 保健体育	2														
		必修 英語基礎	1														
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2												7
		必修 農林業のための科学 農林業史	1 2														
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 先端栽培技術	2						選必 環境保全型農業論	2	14
						選必 植物保護	2	施設園芸 果樹栽培	2 2								
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習Ⅰ（野菜）	4				選必 圃場実習Ⅱ（野菜）	6	必修 企業実習	10			25
											必修 大型機械実習	2	必修 G A P演習	1			
展開 科目	伝統・文化			必修 農山村地域公共学	2												10
	加工・流通・ 販売・経営					食品化学・衛生学	2	選必 農業経営	2		必修 マーケティング・販売演習	2					
	総合 科目					食品加工演習	2			必修 プロジェクト研究	2						2
クォーター 別単位数		14		9		12		8		2		11		10		2	68

履修モデル：林業現場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
		必修 保健体育	2														
				英語応用	1												
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2												7
		必修 農林業のための科学 農林業政策	1 2														
	生産理論			樹木・組織学	2	選必 森林計画学	2	選必 森林土木論（治山・林道）	2	選必 木材生産システム	2				選必 森林マネジメント	2	14
						選必 造林学	2										
						森林生態学	2										
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 演習林実習Ⅰ	4			選必 演習林実習Ⅱ	6			必修 企業実習	10		25
										必修 大型機械実習	2	必修 G A P演習	1				
展開 科目	伝統・文化			必修 農山村地域公共学	2												10
	加工・流通・ 販売・経営							選必 林業経営	2		必修 マーケティング・販売演習	2					
	総合 科目							選必 木材加工演習	2	必修 プロジェクト研究	2	選必 木材利用・流通論	2				2
クォーター 別単位数		13		10		10		6		13		4		10		2	68

履修モデル：牧場等

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区別 単位数
基礎科目	共通	必修 静岡学 必修 情報処理演習 必修 保健体育 英語基礎	2 2 2 1	必修 コミュニケーション論 必修 分子生物学	1 2												10
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論 必修 農林業のための科学 農林業政策	2 1 2	必修 県内農林業事情	2												7
	生産理論			畜産概論	2	選必 飼料総論 選必 家畜飼養 選必 家畜生理解剖	2 2 2	選必 家畜育種繁殖 選必 家畜衛生	2 2						選必 畜産環境・堆肥利用論	2	14
	生産技術	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ（畜産）	4			圃場実習Ⅱ（大家畜） 大型機械実習 GAP演習	6 2 1	企業実習	10				25
展開科目	伝統・文化		必修 農山村田園地域公共学	2													
	加工・流通・販売・経営				食品化学・衛生学 食品加工演習	2 2	選必 畜産経営	2					必修 マーケティング・販売演習	2			10
総合科目									必修 プロジェクト研究	2							2
クォーター別単位数		14		9		14		6		11		10		2		2	68

履修モデル：飼育場

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区別 単位数
基礎科目	共通	必修 静岡学 必修 情報処理演習 必修 保健体育 英語基礎	2 2 2 1	必修 コミュニケーション論 必修 分子生物学	1 2												10
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論 必修 農林業のための科学	2 1	必修 県内農林業事情	2		野生鳥獣管理・利用論	2									7
	生産理論			畜産概論	2	選必 飼料総論 選必 家畜飼養 選必 家畜生理解剖	2 2 2	選必 家畜育種繁殖 選必 家畜衛生	2 2						選必 畜産環境・堆肥利用論	2	14
	生産技術	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ（畜産）	4			圃場実習Ⅱ（大家畜） 大型機械実習 GAP演習	6 2 1	企業実習	10				25
展開科目	伝統・文化		必修 農山村田園地域公共学	2													
	加工・流通・販売・経営				食品化学・衛生学 食品加工演習	2 2	選必 畜産経営	2					必修 マーケティング・販売演習	2			10
総合科目									必修 プロジェクト研究	2							2
クォーター別単位数		12		9		14		8		11		2		10		2	68

短期大学部生物生産科学科 園芸コース履修モデル

別添資料4 (旧)

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区別 単位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2		農業経営	2									7
		必修 農林業のための科学	1			選必 植物保護	2							環境保全型農業論	2	6	
	生産理論				選必 植物遺伝育種学概論	2											
実習・演習	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ(野菜)	4		必修 企業実習	10	圃場実習Ⅱ(野菜)	7						25
					生産基礎Ⅰ(野菜)	1				生産基礎Ⅱ(野菜)	1						
展開科目					食品化学	2	食品加工演習	2		必修 マーケティング演習	2			流通加工論	2	10	
総合 科目									必修 プロジェクト実習	4						4	
クォーター 別単位数		12		5		11		4		14		12		0		4	62

短期大学部生物生産科学科 茶コース履修モデル

科目区分	1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区別 単位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1												10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2												
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2		農業経営	2									7
		必修 農林業のための科学	1			選必 植物保護	2							環境保全型農業論	2	6	
	生産理論				選必 植物遺伝育種学概論	2											
実習・演習	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ(茶)	4		必修 企業実習	10	圃場実習Ⅱ(茶)	7						25
					生産基礎Ⅰ(茶)	1				生産基礎Ⅱ(茶)	1						
展開科目					食品化学	2	食品加工演習	2		必修 マーケティング演習	2			流通加工論	2	10	
総合 科目									必修 プロジェクト実習	4						4	
クォーター 別単位数		12		5		11		4		14		12		0		4	62

短期大学部生産科学科 果樹コース履修モデル

科目区分		1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1													10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2													
		必修 保健体育	2															
		必修 英語基礎	1															
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2			農業経営	2									7
	生産理論					選必 植物保護	2									環境保全型農業論	2	6
						選必 植物遺伝育種学概論	2											
	実習 ・演習	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ(果樹)	4					圃場実習Ⅱ(果樹)	7	必修 企業実習	10			25
						生産基礎Ⅰ(果樹)	1					生産基礎Ⅱ(果樹)	1					
展開科目						食品化学	2	食品加工演習	2			必修 マーケティング演習	2			流通加工論	2	10
												必修 販売演習	2					
総合 科目										必修 プロジェクト実習	4							4
クォーター 別単位数			12		5		11		4		4		12		10		4	62

短期大学部生産科学科 林業コース履修モデル

科目区分		1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1													10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2													
		必修 保健体育	2															
		必修 英語基礎	1															
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2			林業経営	2									7
	生産理論	必修 農林業のための科学	1			選必 樹木・組織学	2			選必 木材生産システム論	2					環境保全型農業論	2	6
	実習 ・演習	必修 総合実習	2			演習林実習Ⅰ	4					演習林実習Ⅱ	7	必修 企業実習	10			25
						生産基礎Ⅰ(林業)	1					生産基礎Ⅱ(林業)	1					
展開科目						木材利用論	2	木材加工演習	2			必修 マーケティング演習	2			木材流通論	2	10
												必修 販売演習	2					
総合 科目										必修 プロジェクト実習	4							4
クォーター 別単位数			12		5		9		4		6		12		10		4	62

短期大学部生産科学科 畜産コース履修モデル

科目区分		1年春期	単位	1年夏期	単位	1年秋期	単位	1年冬期	単位	2年春期	単位	2年夏期	単位	2年秋期	単位	2年冬期	単位	科目 区分 別 単 位 数
基礎 科目	共通	必修 静岡学	2	必修 コミュニケーション論	1													10
		必修 情報処理演習	2	必修 分子生物学	2													
		必修 保健体育	2															
		必修 英語基礎	1															
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 県内農林業事情	2			畜産経営	2									7
		必修 農林業のための科学	1															
	生産理論			家畜生理解剖	2	選必 家畜衛生	2			選必 人工授精論	2							6
	実習 ・演習	必修 総合実習	2			圃場実習Ⅰ(畜産)	4					圃場実習Ⅱ (大家畜・中小家畜)	7	必修 企業実習	10			25
						生産基礎Ⅰ(畜産)	1					生産基礎Ⅱ (大家畜・中小家畜)	1					
展開科目						食品化学	2	食品加工演習	2			必修 マーケティング演習	2			流通加工論	2	10
										必修 プロジェクト実習	4							4
総合 科目																		4
クォーター 別単位数			12		7		9		4		6		12		10		2	62

各コースにおける履修方法 (●:必修、○:選択必修、◎:コース必修)

別添資料6

区分		1年				2年				
		春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	
共通	職業専門科目	農林業基礎	●農学概論 ●農林業のための科学 農林業史 農林業政策	県内農林業事情 県外農林業事情 ○植物生理生態学 ○樹木・組織学 ○畜産概論	営農と農業関連法	野生鳥獣管理・利用論		海外農林業事情		
		生産理論								
		生産技術	●総合実習					●企業実習 ●大型機械実習 ●GAP演習	●企業実習(※再掲) ●大型機械実習(※再掲) ●GAP演習(※再掲)	●企業実習(※再掲) ●大型機械実習(※再掲) ●GAP演習(※再掲)
	展開科目		●農山村田園地域公共学			●マーケティング・販売演習	●マーケティング・販売演習(※再掲)	●マーケティング・販売演習(※再掲)		
	総合科目						●プロジェクト研究			
栽培コース	職業専門科目	生産理論		◎肥料・植物栄養学 ◎植物保護 作物栽培 土壌学 植物遺伝育種学概論	◎先端栽培技術 施設園芸					◎環境保全型農業論
		生産技術			◎圃場実習 I (野菜) ◎圃場実習 I (花き) ◎圃場実習 I (茶) ◎圃場実習 I (果樹)	※いずれか2単位 野菜栽培 花き栽培 茶栽培 果樹栽培	◎圃場実習 II (野菜) ◎圃場実習 II (花き) ◎圃場実習 II (茶) ◎圃場実習 II (果樹)	◎圃場実習 II (野菜)		
	展開科目			食品科学 食品加工演習 アグリフードシステム論	農と食の健康論 食品加工演習※再掲 流通加工論 ◎農業経営					
林業コース	職業専門科目	生産理論		◎森林計画学 ◎造林学 ◎森林生態学	◎森林土木論(治山・林道)		◎木材生産システム			◎森林マネジメント
		生産技術			◎演習林実習 I		◎演習林実習 II			
	展開科目				◎木材加工演習 ◎林業経営		◎木材利用・流通論			
畜産コース	職業専門科目	生産理論		◎飼料総論 ◎家畜飼養 ◎家畜生理解剖	◎家畜育種繁殖 ◎家畜衛生学 畜産法規				人工授精論	◎畜産環境・堆肥利用論
		生産技術			◎圃場実習 I (畜産)		※いずれか6単位 圃場実習 II (大家畜) 圃場実習 II (中小家畜)			
	展開科目			食品科学※再掲 食品加工演習※再掲 アグリフードシステム論※再掲	農と食の健康論※再掲 食品加工演習※再掲 流通加工論※再掲 ◎畜産経営				※圃場実習 II と同じ畜種を選択 畜産経営演習(大家畜) 畜産経営演習(中小家畜)	

科目の見直し状況

(●:必修、○:選択必修、◎:コース必修、無印:選択、自由:自由科目)

別添資料 7

項目	基礎科目		職業専門科目		展開科目		総合科目		総合科目		
	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	
科目数	9科目	9科目	80科目	55科目	10科目	14科目	1科目	1科目	100科目	79科目	
合計単位数	13単位	13単位	196単位	154単位	19単位	28単位	4単位	2単位	232単位	197単位	
必修単位数	10単位	9単位	17単位	18単位	4単位	4単位	4単位	2単位	35単位	33単位	
選択単位数	3単位	2単位	179単位	136単位	15単位	24単位	0単位	0単位	197単位	162単位	
(うち選択必修)	0単位	0単位	12単位	6単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	
(うちコース必修)	-	-	-	98単位	-	10単位	-	-	-	108単位	
自由単位数	-	2単位	-	-	-	-	-	-	-	2単位	
単位数・科目の見直し											
科目統合			生産理論		食品化学				備考		
			施設園芸Ⅱ ◎先端栽培技術 精密農業論 ○木材生産システム論 ◎木材生産システム 森林施業プラン演習 ◎森林マナジメント 森林マナジメント論 ◎森林マナジメント 森林認証演習		食品衛生学 マーケティング演習 販売演習 木材利用論 木材流通論 ◎木材利用・流通論		食品科学 ●マーケティング・販売演習		(科目統合) ・基礎と中級科目の統合 ・講義科目と演習科目の統合		
科目統合			生産技術		畜産経営演習(大家畜)		畜産経営演習(大家畜)		畜産コースはここから2単位		
			圃場実習Ⅰ(野菜) ◎圃場実習Ⅰ(野菜) 生産基礎Ⅰ(野菜) ◎圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅰ(花き) ◎圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅰ(茶) ◎圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅰ(果樹) ◎圃場実習Ⅰ(果樹) 生産基礎Ⅰ(果樹) ◎圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅰ(畜産) ◎圃場実習Ⅰ(畜産) 演習林実習Ⅰ ◎演習林実習Ⅰ 圃場実習Ⅱ(野菜) ◎圃場実習Ⅱ(野菜) 生産基礎Ⅱ(野菜) ◎圃場実習Ⅱ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) ◎圃場実習Ⅱ(花き) 圃場実習Ⅱ(茶) ◎圃場実習Ⅱ(茶) 圃場実習Ⅱ(果樹) ◎圃場実習Ⅱ(果樹) 生産基礎Ⅱ(果樹) ◎圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(大家畜) ◎圃場実習Ⅱ(中小家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) ◎圃場実習Ⅱ(中小家畜) 演習林実習Ⅱ ◎演習林実習Ⅱ 生産基礎Ⅱ(林業)		◎圃場実習Ⅰ(野菜) ◎圃場実習Ⅰ(花き) ◎圃場実習Ⅰ(茶) ◎圃場実習Ⅰ(果樹) ◎圃場実習Ⅰ(畜産) ◎演習林実習Ⅰ ◎圃場実習Ⅱ(野菜) ◎圃場実習Ⅱ(花き) ◎圃場実習Ⅱ(茶) ◎圃場実習Ⅱ(果樹) ◎圃場実習Ⅱ(大家畜) ◎圃場実習Ⅱ(中小家畜)		(職業専門)畜産経営演習Ⅰ(大家畜) (職業専門)畜産経営演習Ⅱ(大家畜) (職業専門)畜産経営演習Ⅰ(中小家畜) (職業専門)畜産経営演習Ⅱ(中小家畜)		畜産コースはここから2単位		
単位数変更							●プロジェクト研究 4		●プロジェクト研究 2		
選択科目の状況と履修要件の見直し状況	一般教養		農林業基礎		(職業専門)		農と食の健康論		(選択科目の状況と履修要件の見直し状況)		
	簿記基礎 (自由)簿記基礎 簿記応用 (自由)簿記応用		農林業史 農林業政策 県外農林業事情 県内農林業事情 海外農林業事情 農山村地域公共学 農と食の健康論 (展開) 野生鳥獣管理・利用論 農業経営 (展開) 畜産経営 (展開) 林業経営 (展開) 営農と農業関連法 営農と農業関連法		農林業史 農林業政策 県内農林業事情 県外農林業事情 海外農林業事情 農と食の健康論 (展開) 野生鳥獣管理・利用論 農業経営 (展開) 畜産経営 (展開) 林業経営 (展開) 営農と農業関連法 営農と農業関連法		食品加工演習 アグリフードシステム論 流通加工論 木材加工演習 (職業専門) (職業専門)		食品加工演習 アグリフードシステム論 流通加工論 ◎木材加工演習 ◎農業経営 ◎畜産経営 ◎林業経営		・コース制による履修要件の明確化 ・基礎力を養成する科目の自由科目化
選択科目の状況と履修要件の見直し状況	コミュニケーションスキル		生産理論		生産技術						
	英語基礎 (自由)英語基礎 英語応用 (自由)英語応用		植物生理生態学 ◎植物生理生態学 肥料・植物栄養学 ◎肥料・植物栄養学 ◎植物保護 ◎植物保護 土壌学 ◎土壌学 ◎植物遺伝育種学概論 ◎植物遺伝育種学概論 作物栽培 ◎作物栽培 茶栽培 ◎茶栽培 野菜栽培 ◎野菜栽培 果樹栽培 ◎果樹栽培 花き栽培 ◎花き栽培 施設園芸Ⅰ ◎施設園芸Ⅰ 環境保全型農業論 ◎環境保全型農業論 森林計画学 ◎森林計画学 造林学 ◎造林学 森林生態学 ◎森林生態学 ◎樹木・組織学 ◎樹木・組織学 森林土木論(治山・林道) ◎森林土木論(治山・林道) 畜産概論 ◎畜産概論 飼料総論 ◎飼料総論 家畜生理解剖 ◎家畜生理解剖 家畜飼養 ◎家畜飼養 家畜繁殖 ◎家畜繁殖 畜産法規 ◎畜産法規 ◎家畜衛生学 ◎家畜衛生学 畜産環境・堆肥利用論 ◎畜産環境・堆肥利用論 ◎人工授精論 ◎人工授精論		◎植物生理生態学 ◎肥料・植物栄養学 ◎植物保護 ◎植物保護 ◎土壌学 ◎植物遺伝育種学概論 ◎作物栽培 ◎茶栽培 ◎野菜栽培 ◎果樹栽培 ◎花き栽培 ◎施設園芸Ⅰ ◎環境保全型農業論 ◎森林計画学 ◎造林学 ◎森林生態学 ◎樹木・組織学 ◎樹木・組織学 ◎森林土木論(治山・林道) ◎畜産概論 ◎飼料総論 ◎家畜生理解剖 ◎家畜飼養 ◎家畜繁殖 ◎畜産法規 ◎家畜衛生学 ◎畜産環境・堆肥利用論 ◎人工授精論		◎茶栽培 ◎野菜栽培 ◎果樹栽培 ◎花き栽培 ◎施設園芸Ⅰ ◎環境保全型農業論 ◎森林計画学 ◎造林学 ◎森林生態学 ◎樹木・組織学 ◎樹木・組織学 ◎森林土木論(治山・林道) ◎畜産概論 ◎飼料総論 ◎家畜生理解剖 ◎家畜飼養 ◎家畜繁殖 ◎畜産法規 ◎家畜衛生学 ◎畜産環境・堆肥利用論 ◎人工授精論		◎プロジェクト研究 4 ◎プロジェクト研究 2		
選択科目の状況と履修要件の見直し状況	生産技術		生産技術		生産技術						
	大型機械実習 ◎大型機械実習 GAP演習 ◎GAP演習		◎大型機械実習 ◎大型機械実習 ◎GAP演習 ◎GAP演習		◎大型機械実習 ◎大型機械実習 ◎GAP演習 ◎GAP演習						

先端技術について学ぶ科目

別添資料10

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
職業専門科目	生産理論（栽培）	先端栽培技術 精密農業は、圃場内の土壌特性、作物の生育や収量のばらつきを、作物・土壌センサー、トラクタ・収量コンバイン、無人航空システム（ドローンに代表されるUAS）、衛星などの手段で位置情報付きの情報として収集し、その関係性についての科学的解析に基づいて、生産性・収量性の改善と環境負荷軽減を同時に目指す手法であり、経営規模や作目、生産環境条件の異なる様々な農家ユーザーに対して有効な農場管理システムを提供することが可能となる。また、施設園芸では、半閉鎖空間施設において園芸植物を生育させる技術が応用展開され、情報通信技術を使った栽培支援システムや、植物工場などの閉鎖型植物生産システムの普及が進みつつある。本科目では、精密農業を可能にする技術とその導入事例及び、複合環境システムや植物工場の仕組みと実際に学ぶ。
	生産理論（林業）	森林計画学 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法、リモートセンシング技術を用いた森林計測等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、森林情報等の基本的事項を学ぶ。さらに、持続可能な森林管理に向けた森林認証制度等を学ぶとともに、今後の地球環境問題等の政策課題についても考察する。
	生産理論（林業）	木材生産システム 森林施業プランナーの役割は、森林所有者に代わり森林経営計画を作成することである。本科目では、森林施業プランナーに必要な木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。その上で、演習を通じて森林調査や森林施業プランを作成するスキル、森林所有や現場技術者など様々な関係者とのコミュニケーション能力・調整能力を学ぶ。なお、林業は労働災害の発生率が他産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策、基本的な救急法講習も学ぶ。
	生産理論（畜産）	家畜飼養 最新技術を駆使した改良・育種技術により家畜の能力は飛躍的に向上したが、同時に、飼育技術の難度も高くなっており、能力を十分に発揮させるには高度な飼育技術が必要となっている。グローバル化に伴う食品安全等に対する消費者意識の高まりから、家畜生理に合致した飼育管理、動物福祉に配慮した飼育管理と同時に収益性も要求される時代になっている。農業分野で最も機械化された畜産分野だが、ICT、IoT、AI技術が急速に導入され、飼料生産、家畜飼養管理、ふん尿処理、生産管理技術等も急速に進化している。一方、生物実験データの提供で人に役立つ実験動物、人に安らぎを与える伴侶動物も広義の家畜として扱う産業分野も拡大しており、従来よりも高度化・広域化した家畜飼育管理技術の基礎を学び、理解を深める。
	生産技術	総合実習 （概要） 水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業の生産に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に則した農業の実学の基本を学ぶ。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。これらの実習や視察を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。
	生産技術	圃場実習Ⅰ（野菜） 野菜には非常に多くの種類があり、それぞれの野菜は植物形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、ブロッコリー、レタスなどの秋冬野菜の特徴と基本的な栽培技術、また、静岡県の特産物であるイチゴ、トマト、温室メロンの特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。さらに、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、環境制御技術を用いた栽培について学ぶ。
	生産技術	圃場実習Ⅰ（花き） 花は非常に多くの種類があり、それぞれの花きは植物の形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、バラ、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラなどの切花や、洋ラン類、観葉植物、鉢花、花壇苗などの鉢物の特徴と基本的な栽培技術について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培、最新の切花の品質保持技術について学ぶ。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
職業専門科目 生産技術	圃場実習Ⅰ（茶）	チャの生育は、生育地の気象条件や土壌条件の影響を大きく受ける。特に、秋整枝は気象の推移や来年度の作業計画を考慮した上で実施する必要がある。本科目では、整枝や防除、施肥、茶園整備、気象災害防止などの秋冬期の栽培管理と、手揉み茶や仕上げ加工、ブレンドなど茶加工に加え、簡易な生長調査、病害虫診断、収穫物の調査を行う。また、これらの実習を通じて、生育管理、病害虫管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業について学ぶ。さらに、茶文化について学ぶため、茶道の実習を行う。
	圃場実習Ⅰ（果樹）	果樹では、ある年の木の生長や果実のならせ方は、その年だけでなく、翌年さらに翌々年の生育に影響を与えるため、将来を見越した成長の均衡が重要である。本科目では、果樹栽培の全般について理解するため、温州ミカンや中晩柑といった常緑果樹や、ナシやキウイフルーツといった落葉果樹の秋～冬期の栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、先端技術の利用や環境に配慮した栽培について学ぶ。
	圃場実習Ⅰ（畜産）	近年、飼育技術の向上や自動化が進んでいるが、家畜飼養の基本は、家畜の持つ生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、畜産の全般について理解するため、牛や鶏などを用いた飼育実習や簡易な調査を通じ、飼料、家畜飼養、衛生管理の基礎を学ぶ。また、畜糞を使った堆肥製造や堆肥の利用方法について学ぶ。さらに、食肉処理施設や畜産物の加工施設、スマート畜産の事例を視察し、畜産をとりまく現状を学ぶ。
	演習林実習Ⅰ	林業者は、森林・林業の専門知識を持ち、それを現場の状況に応じて応用することの出来る技術を身につけることが不可欠である。本科目では、林業の全般について理解するため、林業現場における労働災害と労働安全、チェーンソーや刈払い機などの基本操作と整備方法、森林調査の方法、チェーンソーを使用した伐採などの収穫技術、基本的な造林技術、きのこのなどの特用林産物の栽培、GISなどを活用した森林情報の利用について学ぶ。
	圃場実習Ⅱ（野菜）	野菜は非常に多くの種類があり、それぞれの野菜は植物形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、スイートコーン、エダマメなどの春夏野菜の特徴と栽培技術、また、本県の特産物であるイチゴ、トマト、温室メロンの実践的な栽培技術と栽培管理方法について学ぶ。さらに、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の実践と、環境に配慮した栽培への診断結果の活用方法、環境制御技術を用いた栽培管理について学ぶ。
	圃場実習Ⅱ（花き）	花は非常に多くの種類があり、それぞれの花きは植物の形態、成長の仕方、気象条件や土壌条件への反応の仕方に特徴を持っている。本科目では、バラや、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラなどの切花や、洋ラン類や観葉植物、鉢花、花壇苗などの実践的な栽培技術と栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の実践と、環境に配慮した栽培への診断結果の活用方法、切花の品質保持技術の実践について学ぶ。
	圃場実習Ⅱ（茶）	チャの生育は、生育地の気象条件や土壌条件の影響を大きく受け、特に、初春の低温（凍霜害）による被害は、チャの収穫に大きな影響を与えている。本科目では、春期の凍霜害防止技術、茶の収穫技術、茶製造技術及び茶工場管理について学ぶ。また、生育調査や収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法について学ぶ。また、これらの調査結果や診断結果を活用し、環境に配慮した栽培を実践する方法やチャの栽培分野における先端技術の導入について学ぶ。
	圃場実習Ⅱ（果樹）	果樹では、ある年の木の生長や果実のならせ方は、その年だけでなく、翌年さらに翌々年の生育に影響を与えるため、将来を見越した成長の均衡が重要である。本科目では、普通温州ミカンや早生温州ミカン、中晩柑といった常緑果樹や、ナシやキウイフルーツ、ブルーベリーといった落葉果樹の春～夏期の栽培管理方法について学ぶ。また、生育調査、収穫調査、環境調査、病害虫診断、土壌診断の方法や、環境に配慮した栽培への診断結果の活用方法、先端技術の導入について学ぶ。
	圃場実習Ⅱ（大家畜）	家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、給餌や給水運動、衛生管理、牛糞処理など牛の飼養管理や、牧草や飼料用トウモロコシの播種や収穫、調整、肥培管理、サイレージ調整作業といった飼料作物の栽培管理に関する実践的な技術を習得する。また、乳牛や肉牛、家畜ふん尿の調査・実験方法について学ぶ。さらに、環境に配慮した畜産経営について考える。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
職業 専門 科目	圃場実習Ⅱ（中小家畜）	家畜飼養の基本は、家畜の生理や習性に合わせて飼育方法を工夫し、家畜の優れた能力を発揮させることである。本科目では、給餌や給水、除糞清掃、ワクチネーションなどの採卵鶏や肉用鶏の飼養管理、肥育や保育など繁殖豚の飼養管理、子豚・肥育豚の使用管理について実習を通じて学び、中小家畜に関する実践的な飼養管理技術を習得する。また、養豚や養鶏、家畜ふん尿に関する調査手法を学ぶ。さらに、先端技術の利用や、環境に配慮した畜産経営について学ぶ。
	演習林実習Ⅱ	林業者は、森林・林業の専門知識を持ち、それを現場の状況に応じて応用する技術が必要である。本科目では、近年の林業生産現場で求められている高性能林業機械の基本操作や安全使用、リモートセンシング技術を用いた森林調査と分析方法、保育や種苗生産などの造材技術、集材技術などの収穫技術、造林技術、森林病害虫対策や鳥獣害対策などの森林保護技術、きのこなどの特用林産物の栽培、森林情報の利用、環境に配慮した持続的な林業について学ぶ。